

所属プロジェクト	ロボット型ユーザインタラクションの実用化 「未来大発の店員ロボット」をハードウェアから開発する
担当教員名	三上貞芳、鈴木昭二、高橋信行
氏名	藤内 悠
学籍番号	b1018103
クラス	K
配属時における学習目標は何でしたか。（複数回答可）	複数のメンバーで行う共同作業; 技術・知識の習得方法; 作業を効率よく行う方法
上の質問で「その他」を選んだ人は具体的に記述してください。	
上記の目標達成のために、どのようなことを行いましたか。（自由記述 200 文字以上）	通常の対面式と大きく異なり、オンライン上での活動が中心となったため計画的に物事を進めることに重点を置いた。まずグループに分かれそれぞれの作業や技術・知識習得のために毎週各個人で次週までの課題を設定し、またお互いに確認等を行うことで進捗状況の逐次確認を欠かさないようにした。また効率よく行うために時間内外限らず、自身の作業状況をグループ全員がいつでも確認可能にし、時には discord のような通話アプリケーションを用いて作業状況を配信してメンバーが見られるようにしながら作業を行った。
前期の活動を終えて、学習目標は変化しましたか？ 現時点（7月末）における学習目標を選択してください。（複数回答可）	複数のメンバーで行う共同作業; 教員とのコミュニケーション; 課題の設定方法; 課題の解決方法
上の質問で「その他」を選んだ人は具体的に記述してください。	
（9の質問で学習目標が変化した学生） 学習目標が変わった理由は何ですか？ （200 文字以上）	実際にプロジェクト学習の活動が始まると、オンラインで行うという点を除いても様々な課題が上がったことが大きな理由となる。先の質問の回答でも挙げたように共同作業を行いやすいようにメンバーが全員見れるように設定したは良いものの、それが Google クラウドストレージであったり Git-Hub であったりその他諸々と様々な種

	<p>類が混在してしまうことにもつながったためより効率的に行うにはどれにすればよいか等思案する必要があったためだ。また、活動中は Zoom ではなく discord でグループごとの通話作業を行っていたが discord では教員との接する機会がなくなり教員方とのコミュニケーションが毎回の活動につき 30~40 分程度と非常に短く、教員方も仕事の都合等で Zoom にも参加できない日程が多くあったため限られた時間で有意義なアドバイスをもらえるように意識を転換することがあった。加えて、discord で同じメンバーでずっと共に作業をしていると全員の認識が共通している前提で話し合いが進んでしまうことが多々あり、課題が何なのか、また課題が挙げられたとしてもそれはテーマに即しているかの具体的な掘り下げがなされていないことが増えてしまう傾向だったため課題の設定や解決方法に変化した。</p>
<p>後期、学習目標の達成のために、どのようなことを行う必要があると考えますか。（200 文字以上）</p>	<p>後期はグループ単位ではなくプロジェクト全体でまた新しく再開することになる予定であるためその活動の際に上記で挙げたことに加え、その上技術担当ごとで共通の作業が多くなると思われる。そのためより一層メンバーとの認識にズレやギャップがないかを定期的に確認し、またプロジェクト全体にも意見の食い違いが起これないように全員の合意が得られているかどうかに関心を置きながら活動を行う必要があると考える。後期においては最終成果物の完成が目標の一つでもあるためそれに向けて各自隔離した場での作業を効率よく行う必要があると考える。具体的には AutoDesk のようなツールで共同で cad を動かしたり実際に手元で実物を作っては試し、そして改善する作業を共有する必要があると考える。</p>
<p>前期の活動を振り返って、活動全体の印象や感想を書いてください。（自由記述 200 文字以上）</p>	<p>前期ではすべての活動がオンラインであったため本来であればお互いの空きコマや放課後のお互いに時間がある時を利用して多少は作業を進められたかもしれないができないものは仕方が無いとは</p>

	<p>言え物足りなさを感じた。だが、一方でオンラインであるからこそ、時間外ではいつでも各自の作業を黙々と進めることが容易であったり他者の作業の記録を見つつ自分も奮起しやすい環境にあったと感じます。とはいえやはり可能であるならば実際に同じ空間で共に作業をしたいと強く感じました。</p>
--	--